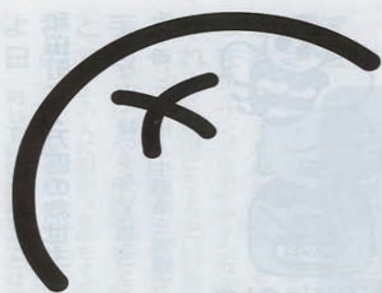


地域みんなで内輪ウケ！  
和田町駅周辺限定情報誌

年4回発行・無料

発行  
地域情報局 スタジオ★へそちく  
〒240-0006 横浜市保土ヶ谷区星川3丁目7-22  
田中ビル2F  
Tel・Fax 045-333-3068  
http://www.hesochiku.com  
制作  
合資会社 笑う門  
〒240-0011 横浜市保土ヶ谷区桜ヶ丘1-39-8  
Tel・Fax 045-331-0018  
http://www.warau-kado.com

※本誌は『和田町駅周辺地域エリアマネジメントプロジェクト』の一環として発行しております。



# わだまち 界隈

第13号



本プロジェクトのキャラクター

そんな中、緑の少ない大都会でミツバチを通じて環境と生態系を実感するこ

## 和田町に2万匹の救世主！

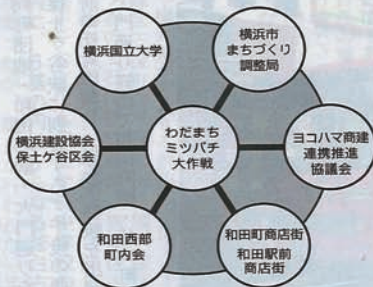
日本でも蜂群崩壊症候群こそ確認されてはいないものの、ミツバチの急激な減少が全国的に起きており、昨年4月の農林水産省の発表によれば、21都県が「ミツバチが不足している」と回答しているという。ミツバチは植物の受粉を助けてくれる大切な生き物で、それがいなくなるといことは、私たちが自然の恵みを受けられなくなる、具体的には食糧不足に直結する大問題である。

## 世界中でミツバチが消滅!?

2006年秋から現在にかけて、アメリカを始めドイツ・スイス・ベルギー・フランス・オランダ・ポーランド・ギリシア・イタリア・ポルトガル・スペインなど、世界各地でセイヨウミツバチが一夜にして大量に失踪する謎の現象が起きている。これは「蜂群崩壊症候群」(CCD)と呼ばれ、原因として疫病・ウイルス・遺伝子組み換え農作物・電磁波・ヘイダニの寄生・殺虫剤・地球温暖化など、様々な説が唱えられているが、決定的なものはいまだ解明されていない。

## ミツバチと共に守り育てる町の自然

# わだまちミツバチ大作戦



本プロジェクトの連携イメージ図

とを目的に2006年から取り組まれている銀座ミツバチプロジェクトが注目されているが、同様の取り組みが和田町でも展開される。「わだまちミツバチ大作戦2010」と命名された本事業は、昭和建设株式会社(工藤圭亮代表取締役・「Goodなお店」参照)と同社が所属する横浜建設業協会保土ヶ谷区会が中心となり、これまでに商学交流事業など、様々な取り組みで培ってきた地域の連携や人材、ノウハウといった地域資源を活用し、地域住民が一体となり自然のありがたみを改めて体感する機会を創出することを目的に蜜源拡大の推進を目指す。具体的には、昭和建设社のある工藤ビル屋上に養蜂場を開設、2万匹のミツバチを養蜂する。養蜂は養蜂関係者に指導を仰ぐものの、工藤氏を始め昭和建设の社員が実際にを行う。採れたハチミツは、現在調整中であるが、和田町商店街・和田駅前商店街の各店で加工・販売する方針。また、養蜂場を設置する工藤ビルは安全上の理由から、通常は一般の出入り

## ミツバチは安全です！

「蜂」と聞くと「刺される」「危険」と考える人もいるかもしれませんが、ミツバチはスズメバチやアシナガバチと異なり性格もおとなしく、刺激をしなければ刺すことはありません。ミツバチは針を刺すと体からちぎれ、内臓が飛び出し、そのダメージで死んでしまうからです。つまり、ミツバチが刺すということは、まさに「命がけ」なのです。本文中の銀座のプロジェクトでも住民が刺された事例は報告されていません。ミツバチの人生は僅か30日～40日。その中で蜜を集められるのは10日間程度。この間に一生懸命、蜜を集めます。ミツバチを見かけたら、やさしく見守ってください。



を制限しているが、養蜂場設置後は日時を限定して地域住民向けに見学会の開催も検討している。  
**地域で育てるプロジェクト**  
前述の通り、ミツバチは蜜を集める過程で植物の受粉を助ける重要な役割を担っている。そのミツバチの急激な減少が確実に農作物の生産に影響を及ぼしている昨今、本事業が和田町駅周辺地域の環境保護の一役を担う可能性は非常に大きい。また、自然環境ばかりではなく、この機会を通じて地域住民の世代間の枠を越えたコミュニケーションが生まれ、「全員参加型の持続可能なまちづくり」の基盤となることも十分に考えられる。和田町の自然を守るミツバチと本事業を、地域が一体となって守り、育ててほしい。

## 住まいづくりに奉仕する！ 安心できる地域の味方



昭和建设  
が  
できる  
地域  
の  
強い  
味方だ。

昭和建设株式会社  
地域密着を徹底的に貫く昭和建设は昭和41年の創業。新築・増改築はもちろん、便利屋さんと思われるくらい細かい業務こそが本来の仕事、というポリシーで、風呂・トイレの修理なども積極的に引き受ける。「お客様と永いお付き合いができてこそ会社の存在意義」と語るのは工藤代表取締役。その姿勢は昨年9月に横浜型地域貢献企業(現在94社のみ認定)に認定されたことにも表れている。建物の修理・メンテナンスに関し業者選びに何かと不安を感じる昨今、安心して「ちょっとお願い」ができる地域

営業時間 8:00～17:00  
定休日 日・祝  
第2・4土曜  
電話 0120-3910-52  
Eメール okyakusama@showakensetu.co.jp

至横浜  
国道16号線  
和  
田  
町  
駅  
南  
口  
東  
側  
2  
階  
工  
藤  
ビ  
ル  
2  
F